

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成25年12月10日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. テニュアトラックプログラム 成果報告会を開催します
2. 山形大学 COC 推進委員会を開催しました
3. 最上義光の新たな文書を発見しました！

お 知 ら せ

1. 人文学部附属ナスカ研究所への研究支援金贈呈式について
2. 第3回 やまがた教員養成シンポジウムの開催
3. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成25年12月24日(火)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成25年12月10日
山形大学

文部科学省科学技術人材育成費補助金「若手研究者の自立的環境整備促進事業」

テニュアトラックプログラム 成果報告会を開催します

山形大学では、文部科学省科学技術人材育成費補助金を受け、山形大学「社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成」プログラムとして、優秀な若手研究者をテニュアトラック教員として採用し、世界的研究拠点形成の中核となる人材を育成してきました。その成果報告会を開催します。

◆プログラム概要

山形大学「社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成」プログラムは、平成21年度文部科学省科学技術人材育成費補助金「若手研究者の自立的環境整備促進」事業の一環として採択されたプログラムで、今年度が補助事業期間の最終年度です。本学ではテニュアトラック制度導入のパイロット事業として位置づけ、国際的に活躍している若手研究者をテニュアトラック教員として採用し、国際的な競争下で新領域の開拓ができ、チェンジマインドを持った若手リーダーの育成を目指してきました。

◆成果報告会概要

日時：12月20日(金) 10:30～16:30(ホステッセヨ)・情報交換会 17:00～

場所：山形国際ホテル 平成東(2階) (山形市香澄町3丁目4-5)

プログラム：

基調講演 「『若手研究者の自立的環境整備促進』プログラムの現状と期待される効果」
豊田 政男 氏 (独)科学技術振興機構科学技術人材改革事業プログラム主管)

事業報告 「山形大学におけるテニュアトラックプログラムの現状について」

深尾 彰 (山形大学理事・副学長)

事業報告 「SQプログラムとその効果について」

森 秀晴 (山形大学大学院理工学研究科教授 (若手研究者支援室長))

テニュアトラックプログラム卒業生等による成果報告

パネルディスカッション「優れた若手リーダーを育成するテニュアトラック制の確立へ向けて」

(お問合せ先)

山形大学 若手研究者支援室

TEL:0238-26-3004 FAX:0238-26-3401

E-mail:wakateshien-st@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

日時

平成25年12月20日(金)10:30~16:30
(ポスターセッション・情報交換会 17:00~)

山形大学

場所

山形国際ホテル 平成東(2階)
山形県山形市香澄町3丁目4-5 Tel:023-633-1313

プログラム

文部科学省 科学技術人材育成費補助金「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業
社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成
テニユアトラックプログラム 成果報告会

- 10:30 ~ 10:40 **開会挨拶** 結城 章夫 (山形大学長)
- 10:40 ~ 10:50 **来賓挨拶**
松尾 泰樹 氏 (文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課長) (予定)
- 10:50 ~ 11:20 **基調講演 「『若手研究者の自立的な研究環境整備促進』プログラムの現状と期待される効果」**
豊田 政男 氏 ((独)科学技術振興機構科学技術システム改革事業プログラム主管)
- 11:20 ~ 11:40 **事業報告 「山形大学におけるテニユアトラックプログラムの現状について」**
深尾 彰 (山形大学理事・副学長)
- 11:40~13:20 **休憩**
- 13:20 ~ 13:50 **事業報告 「SQプログラムとその効果について」**
森 秀晴 (山形大学大学院理工学研究科教授 (山形大学若手研究者支援室長))
- 13:50 ~ 14:50 **成果報告**
「有機半導体デバイスの設計自由度拡張に向けた分子集合状態の分析」
横山 大輔 (山形大学大学院理工学研究科准教授 (テニユアトラックプログラム卒業生))
「機構知によるロボットの新機能の実現」
多田隈理一郎 (山形大学大学院理工学研究科准教授 (テニユアトラックプログラム卒業生))
「失明予防を目指した眼科疫学研究の展開 -『新世代眼科検診』を目指して-」
川崎 良 (山形大学医学部テニユアトラック助教)
- 14:50~ 15:05 **休憩**
- 15:05 ~ 16:15 **パネルディスカッション**
「優れた若手リーダーを育成するテニユアトラック制の確立へ向けて」
モデレーター：新國 時生 (山形大学テニユアトラックプログラムオフィサー)
パネリスト：山本 巖 氏 (信州大学名誉教授)
櫻井 香里 氏 (東京農工大学准教授)
飯塚 博 (山形大学工学部長)
藤井 順逸 (山形大学医学部教授)
白杵 毅 (山形大学理学部教授)
夏賀 元康 (山形大学農学部教授)
コメンテーター：松尾 泰樹 氏 (文部科学省) (予定)
豊田 政男 氏 ((独)科学技術振興機構)
- 16:15 ~ 16:20 **プログラムの講評** 養王田 正文 氏 (東京農工大学教授)
- 16:20 ~ 16:30 **閉会挨拶** 西澤 隆 (山形大学農学部長)
- 17:00 ~ **ポスターセッション・情報交換会 (月山の間 5階)**

参加費
無料

情報交換会参加費
4000円

申込URL <http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/tenure/ja/symposium2013.html>

申込締切日 12月17日

お問い合わせ：山形大学 若手研究者支援室 〒992-8510 山形県米沢市城南4丁目3-16
TEL:0238-26-3004 FAX:0238-26-3401 E-mail:wakatshien-st@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
<http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/tenure/ja/index.html>

1. 山形大学「社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成」プログラム

1-1 プログラム概要

「社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成」プログラムは、平成21年度文部科学省科学振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業の一環として採択されたプログラムです。本プログラムは、国際的に活躍している若手研究者を、一般的な任期制度ではなく、研究領域立ち上げ時における競争的環境と、中長期的視点での新たな研究領域の創成及び発展の両立が期待できる、テニユア・トラック教員ポストに雇用することにより、国際的な競争環境の下、将来を見据え新領域を開拓するフロンティアスピリットを持ち、卓越した社会的知性（Social Intelligence quotient:SQ）能力を駆使して同僚研究者・スタッフを共鳴鼓舞させ研究チームを強力なリーダーシップで牽引していく、チェンジマインド（変革し続ける組織を牽引する先導的思考）を持った若手リーダーを育成します。これを実現することにより、多彩な組織DNAを持った多士済々な若手研究者が集積するユニークな世界的研究拠点を目指します。

同時に、本プログラムを、全学におけるテニユア・トラック制度のパイロットプログラムと位置づけ、プログラムを実施する理工学研究科を「テニユア・トラック推進特区」に選定し、理工学研究科における任期制の導入、個別任期契約職員以外への年俸制の波及を目指し、資源配分の集中投資を行うとともに、人事制度改革の先導的試行を実施することにより、世界的研究拠点形成を加速化します。

本プログラムの実施を通じて、事業終了時には、テニユア・トラック制度の全学実施及び組織文化・風土の改革並びに任期制、年俸制の導入等人事制度の抜本改革を図ります。

◆基本理念 「自然と人間の共生」「地域に根ざし世界を目指す」

有機デバイス研究拠点

山形大学大学院理工学研究科



材料化学と電子工学、機械工学が創造的な連携を織りなす極めて実践的な学際領域

有機ELを核とした国際的に通用する研究の推進

社会的知性 (Social Intelligence quotient:SQ)

- ◆社会的意識
原共感、共感的正確性、傾聴、社会的認知能力
- ◆社会的感覚（人間関係の管理）
同調性、自己表現力、影響力、関心

本事業で育成すべき若手リーダーの人物像

- ・ 将来を見据え新領域を開拓するフロンティア・スピリットを持つ
- ・ 同僚研究者、スタッフを共鳴鼓舞できる
- ・ チェンジ・マインド（変革し続ける組織を牽引する先導的思考）を持つ

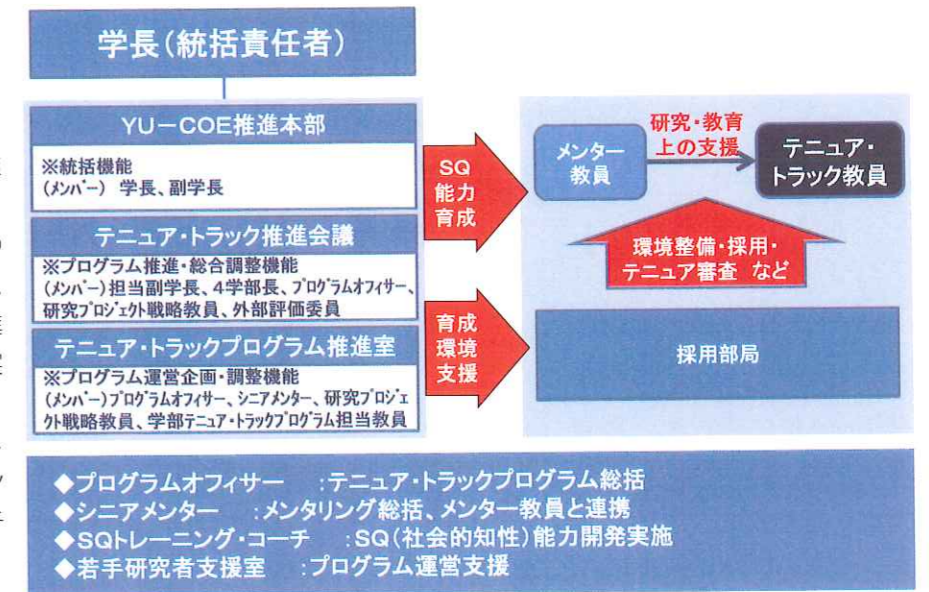
多士済々な若手研究者が集積するユニークな世界的研究拠点を目指す。

1-2 運営体制

学長を本部長とする「YU-COE推進本部」を設置し、選択と集中の資源配分により山形大学の卓越した世界的研究拠点（YU-COE）の形成及び研究環境整備の飛躍的向上を目指しています。YU-COE推進本部では、YU-COE研究拠点を選定した上で、当該研究拠点に対し、資源配分を集中的に投下し、世界的な研究拠点を形成します。

この戦略を実現するためには、テニユア・トラック制度の導入は最重要課題であり、「テニユア・トラック推進特区」の選定により当該特区への集中的な資源配分を進めます。これを精力的に取り組むため、同本部にテニユア・トラック推進会議を設置し、テニユア・トラック制度の設計・実施・検証・改善の総合調整を行います。

同会議の下に「テニユア・トラックプログラム推進室（TTP推進室）」を設け、テニユア・トラック教員の能力開発・資質向上のための各種能力開発プログラムを企画実施します。TTP推進室には、プログラムの円滑な実施を図るためプログラムオフィサーを、教育・研究・マネジメント能力向上のためシニアメンター、SQトレーニングコーチを配置しています。



1-3 公募・採用状況及びテニユアトラック助教に対する評価

大学院理工学研究科を「テニユア・トラック推進特区」に選定し、国際公募により教員を公募、任期制により、テニユア・トラック助教を採用。平成23年4月には理学部・農学部、平成25年1月には医学部においてテニユア・トラック助教を採用。全学展開を推進している。

テニユア・トラック助教に対する評価については、採用時に、「テニユア取得審査基準」をテニユア・トラック助教に開示説明、これに対し各教員が「教員個人評価調査シート」を作成。評価に際しては、これらの書類に基づき、明確・透明性を持った評価を実施。なお、テニユア付与審査は、3年目の中間審査以降半年ごとに申請可能。5年目に最終審査。

	補助事業期間				大学自主財源			
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
1期 【理工学研究科】		→ (4名+1名(大学自主財源)) →			→ うち4名テニユア取得 (H25.4.1現在) →			
2期 【理工学研究科】		→ (3名、うち女性1名・外国人2名) →			→ (分野:有機デバイス・高分子分野2名、バイオ分野1名) →			
3期 【理学部】 【農学部】		→ (2名、うち女性1名) →			→ (分野:無機化学、食品栄養化学) →			
4期 【理工学研究科】 【医学部】		→ (2名) →			→ (分野:電気電子、眼科学・疫学・公衆衛生学) →			

※テニユア付与審査は、採用3年目の中間審査以降半年ごとに申請可能。5年目に最終審査。

平成25年12月10日
山形大学

山形大学COC推進委員会を開催しました

山形大学「地（知）の拠点整備事業」*において、12月5日に、山形大学COC推進委員会を開催しました。

◆COC推進委員会 会議概要

今回が第1回目となるCOC推進委員会には、大学側からは学長をはじめ、各担当理事、基盤教育院長、各学部の担当副学部長らが出席し、県内自治体からは山形県ほか6市町村から代表者が出席しました。

委員会では、COC推進室長の北野理事から、山形大学における事業の概要を説明し、その後、各自治体がそれぞれ抱える課題等を挙げていただき、意見交換を行い、今後の事業の進め方等について検討を行いました。

◆今後の事業の進め方

ほとんどの自治体で課題としているのが、人口減少への対策。高齢化、少子化への対策、雇用対策が次に続いています。また、異常気象等を踏まえた安全安心な暮らしの確保、農業の活性化など地域ならではの課題も挙げられました。今後、このような地域の課題を析出・分析し、解決するための研究を、東北創生研究所を中心に地域と連携して実施していきます。

1月下旬には、キックオフシンポジウムの開催を予定しています。

◆参考

COC推進委員会委員

◎山形大学

学長

各担当理事（教育／研究／社会貢献／東北創生研究所）

各学部のCOC担当副学部長、基盤教育院長

◎自治体

山形県、山形市、米沢市、鶴岡市、上山市、真室川町、戸沢村から各1名

COC推進委員会における審議事項

- (1) 拠点の整備に係る基本方針に関する事項
- (2) 拠点の整備施策の企画及び立案に関する事項
- (3) 拠点の現状分析、評価及び改善に関する事項
- (4) その他拠点の整備に関し必要な事項

*文部科学省の平成25年度「地（知）の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択された、山形大学の事業名は【自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成】。

（お問合せ先）

山形大学企画部研究支援課
電話：023-628-4839

地(知)の拠点整備事業[COC]の概要

1. 事業のポイント

- (1) 大学の教育・研究の地域指向性を高める。
- (2) 地域貢献を大学として統一的且つ体系的に行うことにより、その質を高め、幅を拡大し、実効性を高める。
- (3) 全ての事業を大学と地域が連携して実施する。
- (4) 出来るだけ多くの学生及び教員を参加させる。
- (5) 以上の施策により、大学が、真の意味で、地域の知の拠点として機能するようにする。

2. 事業のコンセプト

我が国人口は今度約40年で現在の70%程度にまで減少すると推定されている。とりわけ東北地方は急激な人口減少に見舞われる地域であり、山形県は全国で5指に入る人口減少県となっている。少子化による人口減少・過疎化、高齢化による生産年齢人口の急激な落ち込み、社会・経済の急激な縮小によるコミュニティーの崩壊、過疎化による行政サービスコストの飛躍的な増大等々の複合的に一体化した直面する問題を解決するためには、社会・経済の拡大を前提に効率性を追求してきた都市(一極)集中型社会システムではなく、各地域社会が自立性を保ちながら連携して持続可能な定常社会を構築する自立分散型社会システムを構築することが求められている。本申請に係る事業は、山形大学の教育、研究、社会貢献の地域志向性を高めることにより、この自立分散型社会システムの構築に寄与し、運営していく人材を育成することを目的とする。

3. 教育

(1) 地域を志向する教育・地域と連携した教育

地域をフィールドとした実習型授業、地域をテーマとした地域志向型授業、及び、地域(地域の問題)をテーマに取り込んだ地域志向型授業を数多く開設することにより、大学の教育の地域指向性を高める。

(2) 地域人材の育成・供給

大学の教育の地域指向性を高めることにより、学生の関心を地域に向けさせ、地域社会が必要とする人材を育成し、人材の地域への定着を図る。

※地域イノベーションの意識(意欲)を持った人材の育成

(3)教育の実質化

地域をフィールドとした実習型授業、地域をテーマとした地域志向型授業、及び、地域(地域の問題)をテーマに取り込んだ地域志向型授業を数多く開設することにより、単なる要素教育(知識の修得)ではなく、具体的な問題に取り組みさせることにより、習得した知識を活用し、問題を解決してゆく実践的な能力を習得させる。

4. 研究

(1)地域の課題を解決するための研究

地域の課題を析出・分析し、それを解決するための研究を、東北創生研究所が中心となって、地域と連携して実施し、地域の課題の解決に寄与する。

※地域の課題を解決するためには、大学と地域との協働、トップと現場に必要な「人材」の配置が必要であり、この両方の要素が満たされないと達成は不可能

(2)地域との共同研究・地域からの受託研究の推進

地域の企業等との共同研究、地域の自治体、企業等からの受託研究を積極的に推進し、地域の活性化に寄与する。

(3)大学の内外における地域人材の育成

1) 上記研究に学部学生・大学院生等を参加させ、将来地域に貢献し得る人材を育成する。

2) 上記の研究を地域と連携して実施することにより、上記研究に参加した自治体職員、企業の従業員等の人材育成機能を持たせる。

※地域(地域の課題)を研究の対象から、人材育成の場に変える。

4. 地域貢献

(1)大学全体での地域貢献

学部や学科、ないしは、各教員ごとに個々別々に行われてきた地域貢献活動を、大学として統一的且つ体系的に行うことにより、その質を高め、幅を拡大し、貢献の実効性を高める。

(2)大学と地域との関係の緊密化

学生・教職員のボランティア活動の活性化、地域でのインターンシップの拡大、地域の学校教育・社会教育への積極的貢献、大学の施設の地域への積極的開放等の施策を通して、大学と地域との関係を一層緊密にする。

5. 事業遂行、事業目的達成のためのポイント

- (1) 学長のガバナンスによる、全学的事業として実施すること
- (2) 大学と地域が課題を共有し、緊密に連携して事業を実施すること
- (3) 大学が地域社会の主体的プレーヤーとして機能し、地(知)の拠点となること
- (4) 大学と地域との機能分担を明確にすること

大学の機能＝事業の実施主体・地域と外部との結節点

地域の機能＝事業の協同者(共同実施主体)・地域内の調整者

平成25年12月10日
山形大学

最上義光の新たな文書を発見しました！

個人蔵の慶長17（1612）年6月4日付「最上義光寄進状」を発見しました。

本年は、最上義光没後400年にあたり、最上義光の事績に注目が集まっています。そうしたなか、最上義光が下山添村八幡役者免に2石の土地を寄付した内容の文書等が新たに発見されました。それは、従来、全く知られていなかった文書です。

本日はそれらの文書を借りだして、紹介します。

史料（1）



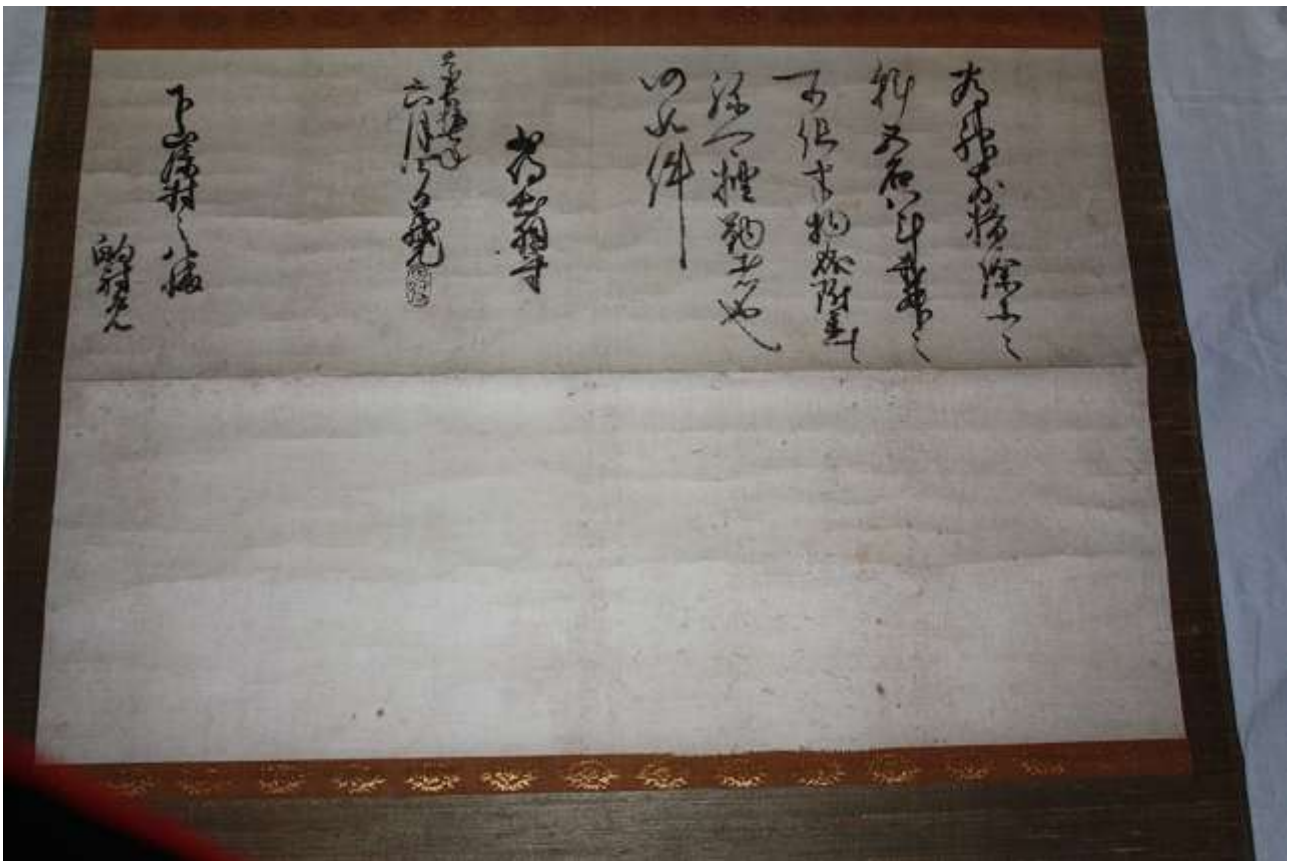
（お問合せ先）

人文学部人間文化学科・教授 松尾剛次

電話：023-628-4917

Mail: kmatsuo@human.kj.yamagata-u.ac.jp

史料 (2)



史料 (3)



<史料説明>

史料（１）と（２）は新発見の最上義光寄進状で、（３）は東大史料編纂所の写によって既紹介ながらも、現物が見つかった文書。

新発見の２点は、いずれも鶴岡市の下山添八幡神社（佐藤信弘宮司）旧蔵のもので、山形市と鶴岡市で見つかった。未紹介のもの。

（３）は、天正１８（１５９０）年の奥州仕置き以後の情勢を伝え、秀次と義光の良好な関係がわかる。

（一）、慶長一七（一六一二）年六月四日付最上義光寄進状

為神前掃除等之料、式石之所、但半物成附置候、弥可抽勤節者也、仍如件
少将出羽守

慶長拾七年

六月四日 義光（黒印）

下山添村之

八幡役者免

（山形市個人蔵）

（二）、慶長一七（一六一二）年六月四日付最上義光寄進状

為神前掃除等之料、五石八斗式升之所、但半物成附置候、弥可抽勤者也、仍如件
少将出羽守

慶長拾七年

六月四日 義光（黒印）

下山添村之八幡

的射免

（鶴岡市、個人蔵）

（三）

罷下刻尾州へ致参上候處、不初事なから過分儀共、門出よろこひ申候故、無相違下着仕候、
為御見舞飛脚申入候、

一、上様（豊臣秀吉）へ御馬一疋引上申候、中納言様（秀次）被加御一覽不苦と被思食候
ハ々、可然様被仰上可被下旨頼入申候、

一、中納言様へ、入御意候御馬、上申度よし存、相尋被申候へ共、よき馬無御座候間、乍
存無是非候、葛西大崎之軀、不相濟仕合候条、定可為御出馬候、其砌御馬一疋用意仕、相
待可申と存候事、

一、奥州之儀、各より可被仰上候之間、還而無□□罷成候てハと存、飛脚口上迄申上候、

一、爰元無事候者、来秋中者早々罷上仍可申談候、旁中納言様へ、折々御取成憑入候事候、
恐惶謹言、

出羽守

五月三日 義光（花押）

（充所欠）

（天正十九（一五九一）年カ）

平成25年12月10日
山形大学

1. 人文学部附属ナスカ研究所への研究支援金贈呈式について

人文学部のナスカ研究に対して、遠藤商事株式会社様、ネッツトヨタ山形株式会社様から研究支援金寄付のお申し出をいただきました。山形大学では、これを人文学部への寄付金として受け入れ、ご寄付いただく2社様に対して、12月18日の「ナスカ研究資金贈呈式」において、学長から感謝状を贈呈させていただきます。

◆日時：12月18日（水） 11：00～

◆場所：山形大学 学長室

◆出席者：

遠藤商事株式会社社長兼ネッツトヨタ山形株式会社社長 遠藤栄次郎様（予定）

遠藤商事株式会社代表取締役社長 遠藤靖彦様

ネッツトヨタ山形株式会社取締役社長 高橋修様

山形大学学長 結城章夫

山形大学人文学部ナスカ研究所長・人文学部長 北川忠明

ナスカ研究プロジェクト担当者

【詳細は別添の資料をご覧ください。】

2. 第3回 やまがた教員養成シンポジウムの開催

山形大学大学院教育実践研究科と地域教育文化学部では、公益財団法人やまがた教育振興財団とともに、教員養成シンポジウムを開催しており、第3回となる今回のシンポジウムは「教師の学びの質を考える—実践と省察をめぐって—」をテーマに開催します。

現在、「教員の質の向上」に向けて、実践型のカリキュラムへの転換が問われています。その1つが「学校現場での実習等の実践的な学修の強化」です。教育実習やスクールサポーター制度を通して学生や院生、教員が学んだことをもとに、教師の学びの質を高めることについてこのシンポジウムで話し合いたいと思います。

◆日時：12月22日（日） 13：00～17：00

◆場所：山形グランドホテル

◆内容：1. 基調講演「専門家としての教師の学びと省察」

佐藤 学氏（学習院大学教授・山形大学客員教授）

2. シンポジウム

【詳細は別添の資料をご覧ください。】

3. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

「大学コンソーシアムやまがた」では、「もう一つの人づくり」を実現するため、「山形県の人・モノ・地域作り」をテーマにそれぞれの得意分野で活躍している第一人者の目線で皆さまにわかりやすくお話しする講話「やまがた夜話」を開催しています。

1月は、「月山に学ぶ」をテーマに2回シリーズで開催します。

◆日時： ※ 両日ともに18:30～19:30

1月16日(木)「地域に学び、地域に伝える一月山マイスター養成講座一」

八木 浩司 氏 (山形大学地域教育文化学部教授)

奈佐 國男 氏 (月山マイスター事務局・月山マイスター)

1月23日(木)「日本のジオパーク運動と月山ジオパーク構想」

中川 和之 氏 (時事通信社解説委員・日本ジオパーク委員会委員)

◆場所：ゆうキャンパス・ステーション (山形市：山形むらきさわビル1階)

◆対象：高校生・学生・一般市民 定員50名 (参加費は無料です。)

【 詳細は別添の資料をご覧ください。】

※ これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

〔 詳細は別添の資料をご覧ください 〕

◎山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点特別セミナーの開催

山形大学先進的研究拠点 (YU-COE) の一つとして、本学で重点支援をしている「山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点」が、畜産分野と医療の臨床の研究の最先端で活躍されている2人の先生をお招きして、先端研究や、畜産や臨床の実際についてご講演をいただきます。男性、女性を問わず、これから子どもをもつ人、子育て中の人、医者や看護師を目指す学生など多くの人に、自分自身に関わることとして受け止めていただき、聴講していただくための企画です。参加される皆様と、「卵子の老化」が抱える問題点を共有したいと考えています。

◆日時：12月14日(土) 14:00～16:30

◆場所：山形大学理学部先端科学実験棟4階 S401 大講義室

◆内容：特別講演1「卵子発生の基礎研究と生殖技術への応用」

独立行政法人家畜改良センター 佐藤 英明 理事長

特別講演2「生殖補助医療の現状と少子化対策・妊活」

国立成育医療研究センター、周産期・母性診療センター、

副周産期・母性診療センター 齊藤 英和 センター長

◆対象：一般の方 ※参加費無料・事前申し込み不要

平成25年12月10日
山形大学

人文学部附属ナスカ研究所への研究支援金贈呈式について

人文学部のナスカ研究に対して遠藤商事株式会社様、ネットヨタ山形株式会社様から研究支援金寄付のお申し出をいただきました。山形大学ではこれを人文学部への寄付金として受け入れ、12月18日（水）にご寄付いただく2社様に対して、学長から「感謝状」を贈呈させていただきます。

<研究支援金の受入について>

このたび、遠藤商事株式会社代表取締役社長遠藤靖彦様、ネットヨタ山形株式会社取締役社長高橋修様から結城学長に対してナスカ研究支援金としてそれぞれ250万円ずつ寄付したいとお申し出をいただきました。山形大学ではこれらのお申し出について人文学部で受入れ、ナスカプロジェクトの教育研究に役立たせていただきます。なお、両社様へは以下の「ナスカ研究資金贈呈式」において学長から感謝状を贈呈させていただきます。

日 時：平成25年12月18日（水）11:00～

場 所：山形大学学長室

出席者：遠藤商事株式会社社長兼ネットヨタ山形株式会社社長 遠藤栄次郎様（予定）

遠藤商事株式会社代表取締役社長 遠藤靖彦様

ネットヨタ山形株式会社取締役社長 高橋修様

山形大学学長 結城章夫

山形大学人文学部ナスカ研究所長・人文学部長 北川忠明

ナスカ研究プロジェクト担当者

渡邊洋一教授、本多薫教授、松本雄一准教授、瀧上舞研究員

お問合せ先

総務部総務課副課長 平賀久義

電話：023-628-4004

Mail： somkich-s@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

教師の学びの質を考える —実践と省察をめぐって—

<基調講演>

13:15—14:15

佐藤 学 (学習院大学教授・山形大学客員教授)

専門家としての教師の学びと省察

<シンポジウム>

14:30—17:00

学校というフィールドで学ぶとは

—教育実習やスクールサポーター制度で学んだことを通して—

司会 森田 智幸 (山形大学大学院講師)

<報告>

第一部 学生の学び

鈴木 聖太 (山形大学3年)

今野 彩夏 (山形大学4年)

信夫 椋 (東北文教大学4年)

遠藤 香菜 (山形大学大学院2年・学部卒院生)

石田 修 (山形大学大学院2年・現職院生)

第二部 大学・実習校の教員の学び

樋渡 美千代 (山形大学大学院教育実践研究科准教授)

奈良崎 芳晴 (山形大学附属小学校教諭)

小沼 裕佳理 (山形県教育庁義務教育課指導主事)

<指定討論>

佐藤 学 (学習院大学教授・山形大学客員教授)

中井 義時 (山形県教育庁教育次長)

<意見交換>



2013年 **12月22日** (日)
13:00-17:00

場所：山形グランドホテル

※当日はホテルの駐車場をご利用下さい。

主催：山形大学大学院教育実践研究科

山形大学地域教育文化学部

公益財団法人やまがた教育振興財団

共催：東北文教大学

◆当日は12時30分に受付を開始します。

◆参加費は無料です。参加を希望する方は、以下のメールまたはFAXに氏名と所属と連絡先を記入して申し込んでください(定員:150名)。

◆申込は2013年12月18日(水)を締切とさせていただきます。

問い合わせ先

山形大学地域教育文化学部事務室総務担当

TEL: 023(628)4304 FAX: 023(628)4313

E-mail: kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<http://www.e.yamagata-u.ac.jp/gstt/>



送信先:山形大学地域教育文化学部事務室総務担当 宛

FAX: 023-628-4313

第3回 やまがた教員養成シンポジウム
教師の学びの質を考える
—実践と省察をめぐって—

◆ 上記シンポジウムに参加ご希望の方は、本申込書に記入の上、上記へFAX願います。

申込締切り: 平成25年12月18日(水)

参加申込書【FAX専用】

ご氏名(代表者)	ご職業(所属)(代表者)
ご連絡先 住所	電話番号 E-Mailアドレス
ご氏名	ご職業(所属)
ご連絡先 住所	電話番号 E-Mailアドレス
ご氏名	ご職業(所属)
ご連絡先 住所	電話番号 E-Mailアドレス

* お申し込みの際にいただいた個人情報は、本会のみ利用させていただき、それ以外の目的での利用はいたしません。また、本会開催後に破棄させていただきます。

やまがた夜話

テーマ『月山に学ぶ』

1月16日(木) 『地域に学び、地域に伝える』

18:30~19:30 一月山マイスター養成講座

八木 浩司 氏

(山形大学地域教育文化学部教授)

奈佐 國男 氏

(月山マイスター事務局・月山マイスター)

1月23日(木) 『日本のジオパーク運動と月山ジオパーク構想』

18:30~19:30

中川 和之 氏

(時事通信社解説委員・

日本ジオパーク委員会委員)

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民
定員:50名

入場無料

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax、郵送、メール等でお
申し込みください。



主催

後援

大学コンソーシアムやまがた
山形市

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
TEL: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820
E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



大学コンソーシアムやまがた



FAX: 023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日: それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に <input checked="" type="checkbox"/> 、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成26年 1月 16日(木) 講師: 八木 浩司 氏 奈佐 國男 氏 <input type="checkbox"/> 平成26年 1月 23日(木) 講師: 中川 和之 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

いま知って欲しい卵子の一生

～卵子もあなたとともに老化する～

我が国では、少子・高齢化が進み、少子化対策に真剣に取り組む必要がでてきています。今回は少子化対策の切り札の一つとされる生殖医療分野の研究をテーマに取り上げました。最近、社会的にも関心が高まっている「卵子の老化」に関して、卵子の基礎研究から畜産分野での応用、医療における臨床研究について最先端のご研究されている先生に分かりやすくお話ししていただきます。どなたでも参加できるセミナーになっておりますので、是非足をお運びください。



日時 平成25年**12月14日(土)** 14:00～16:30

会場 **山形大学理学部 先端科学実験棟大講義室 (S401室)**

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 Tel/Fax: 023-628-4502/4510

特別講演1

卵子発生の基礎研究と 生殖技術への応用

独立行政法人家畜改良センター理事長 **佐藤 英明 先生**

【プロフィール】1971年に京都大学農学部を卒業後、同大学助手、助教授を経て、1992年に東京大学医科学研究所助教授、1997年に東北大学大学院農学研究科教授、2008年に東北大学ディスティングイッシュトプロフェッサー、2013年より現職。2005年日本農学賞・読売農学賞受賞、2009年紫綬褒章受章、2013年日本学士院賞受賞。

特別講演2

生殖補助医療の現状と 少子化対策・妊活

国立成育医療研究センター、周産期・母性診療センター、
副周産期・母性診療センター長 **齊藤 英和 先生**

【プロフィール】1979年に山形大学医学部を卒業後、山形大学医学部産科婦人科講座の助手、講師、助教授を経て、2002年より現職。1981～1982年には、アメリカ南カリフォルニア大学Research Fellowとして留学。著書に「妊活バイブル 晩婚・少子化時代に生きる女のライフプランニング」(講談社、2012年)。

齊藤英和先生の著書▶



主催／YU-COE(山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点) 山形大学工学部バイオ化学工学科

本特別講演は、平成25年度YU-COE「高度生殖テクノロジーイノベーション拠点」、テニュアトラック普及・定着事業(社会的知性を備えた卓越した若手育成)から支援を受けて実施しています。

お問い合わせ先

TEL 023-628-4619 FAX 023-628-4625 E-mail watan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学理学部生物学科生殖生物学研究室 渡邊 明彦 まで

— 山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点特別セミナー —

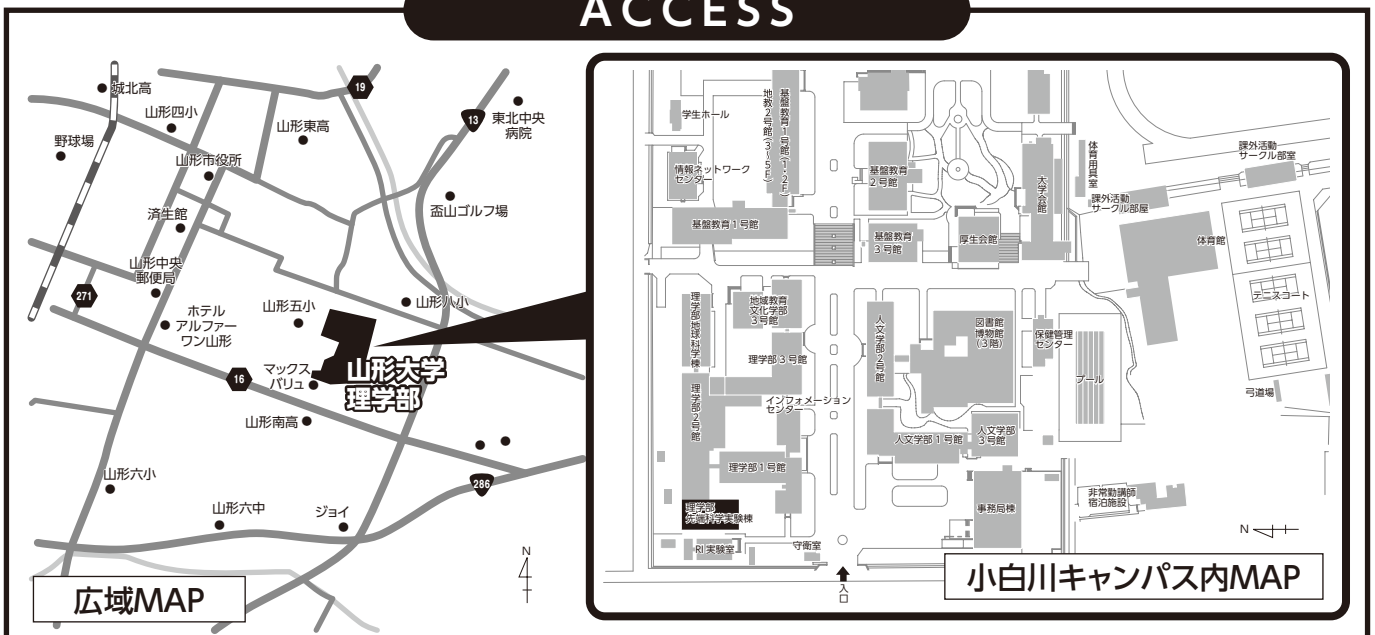
いま知って欲しい卵子の一生 ～卵子もあなたとともに老化する～

日時 平成25年**12月14日(土)**
14:00～16:30

会場 山形大学理学部
先端科学実験棟大講義室 (S401室)

参加費
無料!

ACCESS



当日参加歓迎します!!

お問い合わせ先

山形大学理学部生物学科生殖生物学研究室 担当: 渡邊 明彦

TEL 023-628-4619 FAX 023-628-4625

E-mail/watan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp